

比嘉 県教育委員長退任インタビュー



「全県民が教育の当事者」と語る比嘉梨香県教育委員長
＝8日、県教育庁

比嘉梨香県教育委員長が2011年1月4日で教育委員長の任期を終える。07年の地方教育行政の組織及び運営に関する法律(地教行法)改正後初の教育委員長として、県教育委員会の新たな役割や在り方を模索してきた2年間の在任期間を振り返ってもらった。

県民引き込む環境整備課題

「任期中で印象深かったことは、

「今年の美ら島沖縄総体の開催と興南高校の甲子園春夏連覇。この時期に教育委員長として関わることができて本当に良かった。県民が一体に

総体、興南連覇印象に

なれることを感じた年だった」

「地教行法改正で従来の県教委の仕事と最も変わった点は、

「(同法で作成が義務付けられている)自己点検評価書を作成したこと。作成を通して、県教委や県教育庁の1年間の成果と次年度の課題を話し合い、合意形成ができた。今後、課題などを共有し、県教委と県教育庁、あるいは教育庁内部で連携がさらに進むことを期待する」

「評価書は、県民に対する県教育委員会のマニフェストのようなもの。県民が教育に

関心を持つきっかけになるはず。関心が高まれば、教育行政としてより責任が増し、県内の子どものために良い仕事ができる」

「開かれた教育委員会、行動する教育委員会」を目標に掲げていた。

「県民に、教育委員会の活動が見えるようにしたかった。各教育事務所の会議などに参加し、事務所の職員や各市町村教委との意見交換などを積極的にやった。京都や長野など先進県の取り組みを視察したり、議論が紛糾する保護者説明会などにも参加した。現場でしか感じられない

「開かれた教育委員会、行動する教育委員会」を目標に掲げていた。

雰囲気や、聞こえない声があると聞いたからだ」

「各委員も『開かれた』という目標を理解して現場に行き、それぞれの立場から多くの意見を言ってくれた。委員の方々の協力のおかげで、いろんな活動の芽出しができたかと思う」

「しかし、まだ十分ではない部分もある。来年は、各委員で分担して地域の教育関連行事や学校現場に足を運んでほしい」

「今後の県教育委員会に期待することは、

「教育は全県民が当事者。どうすれば県民が教育に関心を持ち、真剣に考え、行動するようになるか。その環境整備が求められていると思う」(聞き手・銘苅つばき)